

シベリヤ銀河鉄道の夜



ロシア・ハバロフスク市在住

岡田 和也



極東鉄道創建110周年記念祝賀イベントに登場した蒸気機関車 EM 3753 (2007年11月6日、ハバロフスク I 駅にて)

昨年は、ロシアの鉄道の発足170周年、東清鉄道と極東鉄道の創建110周年にあたり、当地でも記念のイベントが催されました。年間ほぼ300万人の乗降客にサービスを提供できるハバロフスク I 駅では、2000年に始まった改修工事が終わり、跨線橋もお目見えし、現在、今年5月末の建都150周年に向けて、町の名前となったロシアの探検家ハバロフの像が建つ駅前広場の整備が進められています。

昨秋、ロシア極東の2大都市ハバロフスクとヴラヂヴォストークを一晩で結ぶ夜行寝台急行列車で運行開始25周年を迎えた『オケアーン(大洋)』号に6年ぶりに乗りました。この列車には2人用および4人用の compartiment の車両と食堂車が連結されています。私は、2人用 compartment で夕食付の切符を求めましたが、客室に入ると、トラベルセット(石鹸、歯ブラシ、歯磨き粉、歯間ブラシ、ティッシュ、ウェットティッシュ、櫛、靴べら、靴用のティッシュ)と新聞3紙に雑誌2誌が寝台に置いてあり、窓際のテーブルには、一輪差し、コップ、それから、パン、バター、ソーセージ、苹果、塩、胡椒、砂糖、コーヒーの粉、飲料水のペットボトル、100グラム入りのヴォートカの小さな瓶の入ったバスケットが載っていました。通路には時刻



ロシア極東の2大都市ハバロフスクとヴラヂヴォストークを12時間1分で結ぶ夜行寝台急行列車『オケアーン(大洋)』号の食堂車

と室温をデジタル表示する装置があり、トイレはいたって清潔で、車体の振動も気になりません。発車のベルのかわりにロシア革命以前のワルツ『アムール河の波』のメロディーが流れるなかを出発してほどなくすると、ルームサービスの食事が運ばれてきました。お願いしてゆったりとした食堂車に席を用意してもらいました。メインディッシュと付合わせはお好みで選べるようになっていて、私は、ポークステーキとポテトフライを頼みました。ビールも色々な国のものがあり、私は国産の壘ビールをいただきましたが、ちゃんと冷えていました。こんなところにも、市場経済へ移行したロシアが接客の質の向上に努めていることがうかがえます。

斜陽の差し込む窓の枠は、ニス塗った木製で、なんともいえない温もりと安らぎを感じさせてく

れて、これはぜひ残してほしいと思いました。部屋にもどると、同室の方はもう髪をかいています。ちなみに、ロシアでは、去年7月1日から、すべての長距離列車の乗客が、乗車券を購入する際に、男性専用、女性専用、男女同室のいずれかの compartment を選択できるようになりました。このサービスは、女性客の要望で導入されたそうですが、男性客にもなかなか好評のようです。さて、消灯していても室内は星明りに照らされ、コニャックを飲みながら無数の星を眺めていると、ある停車駅のまえにロシア正教の聖堂がひっそりと姿をあらわし、いつしか、宮沢賢治の童話『銀河鉄道の夜』のジョバンニやカムパネルラと一緒に、銀河ステーション、白鳥の停車場、南十字へと向かう列車に揺られているような気がしてまいりました。